

独立自営就農② 池信 弘美さん（52歳）

～結婚、子育てを経て、念願の就農を実現！～

<プロフィール>

- 出身地：大阪府大阪市
- 就農地：大山町
- 就農品目：白ねぎ（秋冬）
- 就農時期：平成29年4月
- 家族構成：夫、子2人
- 前職：酪農ヘルパー



<現在までの道のり>

- ・平成28年6月～9月 公共職業訓練「アグリチャレンジ科」受講。
- ・平成28年10月～平成30年1月 大山町の生産者の元で雇用就農。
- ・平成30年2月 自営開始。

1 就農の動機

- ・子供の頃から自然に対する興味が強く、将来は農業に携わっていくことを決め、農業高校、農業大学校を通じて、酪農を中心としながら、広く農業について理解を深める。
- ・農大卒業後、今しかできない経験として、海外研修に行く機会を得、事前の実践トレーニングとして、琴浦町で酪農経営を営む生産者のもとで実習をさせていただいたのが、鳥取県との縁のきっかけとなり、帰国後、大山乳業の酪農ヘルパー組合へ就職し、結婚を機にヘルパー組合を退職。
- ・大山町にある夫の実家は、水田などを有する兼業農家であったことから、毎年、田植えや稲刈りなどを手伝い、子育てが一段落した後は、その基盤を活かして農業を実践していくことを考え始めることとなる。

2 就農準備

①家族の同意

- ・夫婦で相談し、子供が小学校に通う間は学校行事も多く忙しいため、中学校に通い始めてから私が野菜の栽培技術を習得し、本格的に農業を始めることとし、夫は定年退職まで会社勤務を続けることとした。

②就農品目の選定経過

- ・大山町はブロッコリーの産地ですが、家事をこなしながら、自分のペースで作業をこなすには、就農品目として適していない気がした（早朝の作業など）ので、同じく露地野菜で、大山町で生産量も多い白ねぎを選択することとした。

③就農に向けた栽培技術の習得

- ・夫の実家の基盤を活かす形で就農する私にとって必要だったのは、新たに栽培する品目の決定と栽培技術の習得だった。そのため、農大での研修を活用し、次のようにして技術を学びました。

●公共職業訓練「アグリチャレンジ科」(平成28年6月7日～9月16日)

・農業機械の操作など、主に農業に必要な技能を習得するための研修ですが、私は従前、畜産関係で大型機械作業の経験を積んでいたため、どちらかと言えば、病害虫の基礎、農薬の扱い方、植物生理、土壌肥料、農業気象など、座学講義で様々な基礎知識の習得ができたことが、就農に向けてプラスとなった。

●雇用就農

・アグリチャレンジ科修了後、大山町でブロッコリー、白ねぎ等を生産する生産者の元に就職し、1年4ヶ月間、実践の白ねぎ栽培に従事。



④就農地の確保

・夫の実家の水田と果樹園跡の畑を活用し、車で5分以内の範囲に3ヶ所、合計33aにて初年度の白ねぎを栽培。

⑤機械・作業場の確保

・もともと夫の実家にあったトラクター、作業場を活用。管理機及び動噴は、農業をやめた方から譲っていただいた。

・義母や夫が作業を手伝ってくれることもありますが、調製作業は概ね一人で行うため、効率化のためにも根葉切り機は必ず導入しようと考え、JAの「生産者所得アップ応援事業」による助成と融資を活用して、白ねぎ調製用の皮剥機、根葉切り機を新規購入。

・育苗は、投資を抑えるためハウスを導入せず、トンネル育苗とした。

3 経営概要 (就農当初)

①経営品目と栽培面積	秋冬白ねぎ 33a
②所有機械	トラクター1台、管理機1台、動噴1台、皮剥機1台、根葉切り機1台
③労働力	概ね本人のみ(夫、義母が時々手伝い)
④販売先	全量農協出荷

4 経営を開始しての感想

・当然ながら、自分で計画・段取りのすべてを組み立てて、生育状況を見ながら使用資材を選択することが必要で、1作目は基準となるものがないため、本当に手探りで大変でした。

5 これからの目標

・年々収量も増えてきましたが、気象変動が激しく、毎年の様子が違い、苦戦しながら栽培している状況ですので、より2L揃いの白ねぎが栽培できるようになることが目標です。

・その上で規模拡大できる余地があれば、子育てしながら就農を目指す女性等、自分と同じ立場の方が働きやすい職場を作り、雇用したいと考えています。

6 就農を希望する方へのアドバイス

・結婚、出産を経ながらも、女性が農業を始めることは可能です。ただし、可能な限り生活のリズムに合った品目を選択することが大事だと思います。品目の特性や年間スケジュールをよく勉強

し、自分に何が合うかを見極めてください。